福部地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１１月２８日（金）　１９：００～２０：００
２　会　場　福部町中央公民館
３　出席者　地元出席者　　３９名
市側出席者　　１６名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、久野新市域振興監、神谷教育委員会事務局次長、高橋秘書課長
＜福部町総合支所＞宇山支所長、坪内副支所長、山本市民福祉課長、吉田産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　駟馳山バイパスのインターチェンジの増設について

＜地域課題＞

今年春、駟馳山バイパスが開通したが、福部町内においてはインターチェンジが福部町西側の湯山に１箇所しかなく、特に福部町の奥部も含め中心部一帯の町民にとって恩恵が全くない。

また、湯山インターチェンジの交差点は、駟馳山バイパス、県道、市道が絡み合い複雑となった上、鳥取砂丘へ向かう県外車・大型観光バスを始め、福部町内に入る自動車の殆どが利用しているため、周辺の福部小・中学生、高校生の登下校時や高齢者の横断時の危険性が危惧されている。

このため、観光シーズンで渋滞する県外車の分散も含め、駟馳山バイパスと市道海士海岸線が交差する辺りに海士インターチェンジ（仮称）の新設を是非お願いしたい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

平成２６年７月に鳥取県に要望を行い、以下のとおり回答がありましたのでお知らせします。

（鳥取県回答）

「新設インターチェンジの必要性及び設置の可能性について、検討中です。」

本市としても、福部ＩＣ～大谷ＩＣ間における福部町地内の適地に新たなＩＣを整備することは、福部町地区の今後のまちづくりはもとより、砂丘周辺の渋滞対策、国道９号から駟馳山バイパスにおける交通の円滑化などを総合的に判断しても、必要性は高いと考えております。

今後とも県に対し新たなＩＣ整備の要望を継続するとともに、実現に向け必要な事業調整を行ってまいります。

（都市整備部長）

駟馳山バイパスは、地域高規格道路、鳥取豊岡宮津自動車道の一部として、地域間の交流発展を図るとともに、駟馳山峠付近の交通混雑解消や冬期の交通機能確保など、安全で円滑な交通確保を目的とした道路であり、今年３月２２日に供用開始されました。

インターチェンジは、福部町湯山の福部インターチェンジと、岩美町本庄の岩美インターチェンジの他、岩美町大谷にはハーフインターチェンジがあります。

ご要望いただいた「海士インターチェンジ（仮称）」の増設については、今年７月に鳥取県に要望を行いました。鳥取県からは、「新設インターチェンジの必要性及び設置の可能性について検討中です」という回答をいただいています。

福部地内の適地に新たなインターチェンジを整備することは、福部地域のまちづくりはもとより、砂丘周辺の渋滞対策や交通の円滑化などを総合的に判断しても、必要性は高いと考えますので、本市としても、鳥取県に対して整備の要望を今後も継続するとともに、必要な事業調整を行っていきたいと考えています。

（地元意見）

湯山インターチェンジは非常に複雑で、普段から子ども達の通学路の面でも非常に不便や危険性を感じています。観光シーズンには多くの大型バス等が通行するため、交通渋滞により我々の住民生活に大きな支障を来しています。また、福部駅周辺から奥部の人や細川、岩戸方面に住んでいる人にとっては、使い勝手が非常に悪いです。

土地だけは提供しバイパスが完成したが、何にもならないという声をよく聞きます。この要望を県に強くお願いしていただき、ぜひ実現していただくようお願いします。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

福部の教育を考える会において、幼小中一貫校についての協議を進めていますが、市の協力をいただいて前進しており、大変ありがたく思っています。

先日の新聞に、「今後は国の制度が変わり、各自治体の首長が教育長を任命することになる」と書いてありました。「ただしそれにはいろいろと懸念される点があり、首長の意向が前面に出過ぎるのではないかと教育界から危惧の声も上がっているが、首長と教育委員会サイドとの連携がとれているところはうまくいっている」という記事でした。

鳥取市として、今後、例えば市長が教育長を任命するようになるなどの予定はありますか。

（深澤市長）

教育委員会制度が変わることに関連してのお尋ねだと思います。

首長部局、いわゆる市町村長や知事と、教育委員会は従来別々の機関で、教育委員会の独立性を保障している形なのですが、「地方教育行政法」略して「地教行法」が変わり、首長が教育長を任命することになります。

しかし鳥取市では、教育委員会と市長部局は従来から連携し、情報を共有しながらさまざまな問題に対応してきています。そういう面では、このたびの法律改正によって今までと何かを変えるということはあまりないと考えていますし、今後も今まで以上に連携を密にしながら、首長も一緒に教育行政を考えて対応していきたいと思っています。

法の趣旨を今一度しっかりと理解しつつ、今まで以上に連携していきたいと思います。

（地元意見）

幼小中一貫校について、分かる範囲内で今後の方向性について説明してください。大半の町民が大きな関心を持っていて、いろんな所で話題に上ります。

（教育委員会事務局次長）

現在、校区審議会は大前提として、学校のあり方を地域の皆様で考えていくための組織をつくり、その中で協議していきましょうという方針で活動しています。その中で、いち早く組織づくりをしていただいたのが福部町です。「福部の教育を考える会」からは、６月に要望書をいただき、その後、校区審議会が福部町に出かけて現地を見たり、意見交換会を開催したりして、１０月３０日に、ほぼご要望どおりの答申を出させていただきました。

現在はまだ骨格ができあがったところで、理念的な話です。幼少中の１０年一貫であること、また、「コミュニティ・スクール」として運営していこうといった案はありますが、具体的にどのような教育をしていくのか、あるいはハード面をどう使用していくのかということは、今後考えていかなければいけません。

また、住民の皆様にもっとご理解いただくための、広報や啓発も考えていかなければいけません。そこで、１１月１７日の考える会において、考える会とは別の「幼小中一貫校推進委員会」を立ち上げましょうと、教育委員会側から提案させていただきました。この委員会は、具体的な話を詰めていくための組織です。そして、委員会の中に「教育課程部会」、「教育環境部会」、「啓発部会」という３つの部会を置き、それぞれに地域の皆様や学校関係者、保護者の代表の方々などに入っていただいて進めていくことが決まりました。今後、さらに細かい制度や考え方を詰めていくことになります。

現時点では、校区審議会も教育委員会も明確なゴールはお示ししていませんが、幼小中の１０年一貫は、全国的に見ても非常に先進的な取り組みとなります。小中一貫は結構ありますが、幼が入るのは非常に少ないと聞いています。鳥取市では、湖南学園が既に小中一貫校として運営していますが、それよりもさらに夢のある学校づくりに向かっていけるのではないかと思います。また、鳥取市には「小規模校転入制度」があります。これは、規模が小さい小学校については、校区を越えて通学しても良いという制度で、現在は小学校のみが対象です。これを、福部の幼小中一貫校については、小学校で受け入れ可能とす

ることはもちろん、中学校からでも転入可能とする仕組みも検討する予定としています。
　開校時期についてのご説明はまだできませんが、なるべく早い段階で、皆様の思いを酌み取った、楽しくて魅力ある学校ができることを期待しています。
　いろいろな意味で福部が活性化していくよう、あるいは子ども達にとって楽しい学校になるよう頑張っていきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

※「コミュニティ・スクール」とは
　学校運営協議会制度。学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。　※文部科学省ホームページより

（地元意見）
　私は福部地区の人権教育推進協議会の会長をしており、毎年「小地域懇談会」で各集落を回ります。今年度は、昨年鳥取市が作成した「震災の記憶を語り継ぐ」というＤＶＤを鑑賞し、もし地震が起こったらどう動けば良いか、あるいは寝たきりの高齢者をみんなでどう助けるかなどの話をしました。しかし各集落を回ってみると、第一次避難所であるべき各集落の集会所が全く耐震ができていません。そして、何かあった時に集会所に集まろうとしても、その集会所が一番危険だという声もよく聞きました。
　これは、福部町だけに限らず市全体の集会所の問題だと思います。そしておそらく、万が一何かが起きた時に使用できない所も出てくると思います。大地震がいつ起きるのかも、もちろん分かりません。福部町は塩見川が改修されるので、今後は浸水被害もなくなっていくのだろうと思いますが、一時避難所は高齢者などにとってはとても大事な場所であり、小学校に移動するまでのよりどころだと思います。その集会所について、今後の計画というものはあるのでしょうか。

（深澤市長）
　集会所は、災害発生時に地域の皆様が一時的に避難されるという、非常に大切な機能があると思います。鳥取市は、他の自治体と比較して集会所の建て替え等の制度が手厚く、１／３の補助率で、上限１千万円まで助成させていただく制度もあります。こういった制度をご活用いただき改修等をしていただくことが可能だと思いますし、これから地域の防災力をますます向上させていくことが必要だということで、今年度から、自主防災会に対する支援制度等を少し充実させていただきました。
　引き続き、地域防災力の充実強化に努めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（地元意見）
　小地域懇談会で各集落を回る中で、現在使用している防災無線がデジタル化になると、現在のような使い方ができないのではないかと不安を漏らす方がありました。どういう計画を考えていますか。福部町に防災無線が導入された当時は、住民はこのままの状態でずっと使用できると思っていました。だから、各家庭に戸別受信機がなくなり、外の拡声機

のみでの放送となった場合に、雨風の強い日などに果たしてきちんと情報が伝わるのか不安だという声を聞きます。

（深澤市長）

防災行政無線は、合併前の旧市町村によって異なる形で運用されてきました。

合併後、鳥取地域と国府町地域では、「屋外拡声子局」という屋外スピーカーを立て、一部、例えば地区会長さんや自主防災会会長さんなどの家に、希望に応じて戸別受信機を置くという方法で整備を進めてきています。国府町以外の７町については、現在アナログによる防災行政無線を運用していますが、戸別受信機は型が古く、今はもう製造していない型式の物もあります。そのため、順次デジタル無線に切り換えていく予定です。

基本的には、鳥取地域と国府町地域と同じ方法で整備を進める予定です。ただし、屋外にスピーカーを設置するよりも各世帯に戸別受信機を配置した方が良い場合もありますので、そのあたりを判断しながら進めていくことになると思います。

ただ、防災に関する緊急放送以外のいろいろな情報も放送すべきではないか、というご意見もお聞きしています。そういった情報については、例えばケーブルテレビを活用したり、他の情報伝達手段を考えるなど、今後検討していかなければならないと思っています。

（地元意見）

昨年の地域づくり懇談会で、高江橋を抜け道として利用する自動車が多く危険なため、高江橋に歩道橋を設置してほしいと要望しました。実は現在、河川改修工事により塩見川沿いの県道が通行止めになっていて、総合支所前も非常に自動車が多くなりました。このあたりについて担当部長に説明をお願いします。

（都市整備部長）

高江橋の歩道橋については、昨年の地域づくり懇談会において、歩道橋の設置が難しい中で安全対策はどうするのかという話が出ました。

今年１１月１４日に、教育委員会が事務局をしている「鳥取市通学路交通安全対策推進協議会」による、現地の合同点検を実施しました。その中で、車道の白線を変更し歩道部分を確保する案が、安全対策の１つとして挙がっています。しかし道路幅は変わらないため、歩道部分を確保することによって車道部分が狭くなり、自動車が通行しにくくなることが考えられます。また、この方法は歩車道分離ではないため、安全性に少し問題があります。そのため合同点検では、児童生徒の皆さんの安全な通学を確保するためには、少し遠回りになっても、歩道が整備されている道路を通学路として利用することも検討していただくようにお願いしたと聞いています。

（地元意見）

福部町には、上野集落という交通アクセスの悪い集落があります。いろいろな面で非常に不便を感じています。高齢化率は５０％を超えています。

何年も前から、岩美町から鳥取市国府町美歎まで通じる「岩美広域農道」を工事していますが、まだ完成しません。今は、福部町久志羅の辺りで２００ｍほどの区間を工事して

います。完成すれば、福部町内を走っている「らっちゃんバス」や、ＪＡの食料品や雑貨類の移動販売車も走らせることができます。また、緊急車両も集落に早く到着できるようになります。平成２８年度には完成すると聞いていますが、ぜひ、この広域農道の早期完成をお願いします。

（深澤市長）

国府町美歎から岩常までの１３．３ｋｍの「岩美広域農道」を、現在県の事業として工事していただいているところです。私が承知している範囲では、県の事業としては平成２８年度中の完成を掲げておられます。現在は、上野から蔵見までの４．３ｋｍの工事にかかっておられるところだと思います。平成２０年３月には、蔵見から岩常のトンネルまでが開通し、その時には私も行かせていただいたことを今でも思い出します。

早期完成については、機会があれば県にお願いしていきたいと思います。

（地元意見）

合併して１０年が経過しましたが、非常に良い面もあり悪い面もあります。インターチェンジや砂丘の砂像、あるいは教育などの大きな問題については、ダイナミックに動いていて非常に良いと思います。しかし全てが良いわけではありません。

毎年開催されているこの地域づくり懇談会には、市長が来てくださって懇談や意見交換をしていますが、総合支所にも相談日があります。今の総合支所長は、地域や現場に出かけて細かい意見を聞いてくれます。そういった意見は、あちこちの集落から上がってくると思うのです。先日の国会で地域再生法ができましたが、地域の再生のためには現場の感覚を大事にしなければいけないと思います。県知事も鳥取県が先端を走ると言っていますが、総合支所長も先端を走っています。

また、今日の新聞に、２０１９年度末までに転入超過都市へ移行する事業を立案するよう、市長が１０月下旬に課題を提示したという記事が掲載されていました。転入の方が多い状況にすることはなかなか難しいと思いますし、企業誘致も難しいです。誰に聞いても、働く場がなければ出ていくと言うし、若い人を学校に行かせても就職で帰ってきません。そのあたりが解決すれば、鳥取市も復活し地域再生になると思います。

福部町には第一次産業もあるのだから、磨きをかけて特色を作ることと、そして福部町から上がった意見は、細かい意見でも検討をすればヒントになると思います。

（支所長）

今年８月から１１月初旬にかけて、希望のある集落へお邪魔し、教育を考える会や新市域振興ビジョンの説明、また公共施設のあり方等を説明させていただきました。そして、地域の課題や問題点等について意見交換もさせていただきました。今後も希望される所には出かけていきたいと思いますし、皆様からいただいた意見は本庁とも協議し、皆様のご意見が反映されるよう努めていきたいと思います。

（深澤市長）

「２０１９年度末までに転入超過都市に移行せよ」ということで、職員からいろいろな

アイデアを出してもらいました。たしかに「転入超過」というのは、なかなか至難のわざかもしれません。しかし、鳥取市の人口減少理由を調べてみると、学校を卒業した若い方が鳥取市で就職されず、市外や県外に転出しておられることが数字の上でもはっきりしています。それを何とかすることによって人口減少を食いとめ、転出よりも転入が増えて人口が増加するという方向に変えていきたいと思っています。

そのために、地域の産業をしっかり支援し底上げをしていくことと併せ、新しい企業に進出していただくなど、若い方が働く場をもっと増やしていくよう、今こそ全力で取り組んでいかなければならないと考えています。これを今の市政の喫緊の課題だと意識し、取り組んでいるところです。１、２年ではなかなか難しいですが、若い職員がいろいろなアイデアを出してくれ、市役所を挙げて取り組んでいますので、ぜひともご期待いただければと思います。頑張りますので、よろしくお願いします。

（地元意見）

先日ある会議で大学の先生に聞いたところ、鳥取大学を卒業する学生は毎年約１，０００人、環境大学を卒業する学生は約３００人で、確実に１，３００人前後の学生が卒業しているそうです。しかし、その中で鳥取市に残る学生はほとんどいないので、非常にもったいないことではないかというお話でした。その話を聞いて大変残念に思いました。学生を残すには、働く場をつくる以外にないと思いますので、ぜひ、働く場あるいは生きがいの持てる仕組みをつくってください。

（深澤市長）

市としても、卒業後はぜひ鳥取市に就職してご活躍いただきたいと考えており、卒業時に奨励金をお渡しする取り組みなども実施しています。何よりも若い方に就職していただけるよう、奨励金だけでなく総合的な視点で、施策に取り組んでいきたいと思っています。

（地元意見）

今年は砂丘らっきょう１００周年ということで、来年３月までの事業として取り組んでいます。市からも絶大なる支援をいただき、ありがとうございます。また、新規就農に至っては、市の援助を受けた方が今年８月に新規就農として巣立たれました。これも一つの人口増加につながったのではないかと思っています。この方は、家族３名で愛知県から福部町に来られ、らっきょう作りをしておられます。

福部らっきょう生産組合では今年から来年に向けて３軒農家が減り、７３戸になります。また後継者不足もあり、農家の数がだんだん減っています。組合としては、農地をなるべく維持しつつ今後も頑張っていきたいと思いますが、後継者不足については、個々の農家で対策を打つのはなかなか難しい部分があります。

組合として一所懸命頑張って、若い人がらっきょうを作りたいなと思える、魅力ある農業、農家にしていかなければいけないと考えています。そして、「明るい農村、小さな幸せ」ではなく、「明るい農村、大きな幸せ」になるよう今後も頑張っていきます。今後も、福部らっきょう組合としていろいろと企画し市にもお願いに上がりますので、その節は今までと変わらず支援をお願いします。

（深澤市長）
本当にありがとうございます。福部町でらっきょうの本格的な生産が始まってから、今年でちょうど１００周年という非常に記念すべき年であり、記念誌を発行されたり、また新しい商品開発をされたりと、非常に熱心に取り組んでいただいています。改めて感謝申し上げたいと思います。福部砂丘らっきょうは、鳥取市を代表するブランド農産物ですので、今後も生産振興を図っていきたいと思いますし、全国的にも、もっとＰＲしていきたいと思っているところです。生産農家の方が後継者不足とのことですが、一方では若い方でも生産を目指していかれる方が出てきているようで、明るい材料だと思っています。市としても、引き続きできる限りの支援をさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

（地元意見）
高知県土佐市に旅行に行きましたが、おもてなしの心で迎えてもらいました。どういうことかと言うと、観光パンフレットを見て行きたい所がある場合に経路が分かるよう、交差点の信号機の横に、パンフレットと連動した「ココ！マーク」というアルファベット記号がついているのです。主だった交差点のみですが、「Ａ、Ｂ、Ｃ」とそれぞれ記載されています。そして、パンフレットに書いてある「ココ！マーク」と照らし合わせて運転していくと、目的地に到着します。私は、おもてなしだと思いました。ごちそうのおもてなし、景色のおもてなしはありますが、パンフレットの中にもおもてなしがあるのです。このパンフレットは、道の駅にちゃんと置いてあります。観光客に優しく、お迎えしてくれているのだという気持ちがしました。鳥取でも同じようなことをすると良いと思います。

（深澤市長）
観光客の誘客も、市としてしっかり取り組んでいかなければならない重要な分野です。交流人口のさらなる増加を進めることにより、地域の活性化や地域経済の活性化を図っていくことが、鳥取市には必要だと思います。案内看板等も含め、おもてなしの心を持って、鳥取市にお越しいただくお客様を迎えていくことが大切だと思いますので、ぜひとも参考にさせていただきたいと思います。

（地元意見）
千葉県松戸市には「すぐやる課」がありますが、鳥取市にもあの課が必要ではないかと感じます。

（深澤市長）
「すぐやる課」をつくるのでなく、どの課もすぐやる課であるという気持ちで、市民の皆様に対応させていただくことが大切ではないかと思っています。複数の部署にまたがるような場合には、市民総合相談課が総合的な窓口として対応させていただき、それを担当課につないで、時間を置かずできるだけ早く対応させていただくようにしています。
市役所全体が「すぐやる課」であるよう、今後も心がけていきたいと思います。よろし

くお願いします。

６　市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

限られた時間ではありましたが、いろいろなご意見やご質問、ご提言をいただき、本当にありがとうございました。７月から始まったこの地域づくり懇談会も、今日の福部地区で今年度は終了となります。１年に１回の開催ですが、懇談会以外でもご意見やご質問をいただければと思っています。総合支所、あるいは本庁各課でも結構です。いつでも、いろいろな形でご意見がいただければ大変ありがたいと私は思っています。皆様のご意見等を限りなく市政運営等に反映させていきたいという思いでおりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

福部らっきょう生産１００周年、そして鳥取市合併１０年という非常に大きな節目の年です。将来に向けて市民の皆様と力を合わせ、より良い鳥取市にしていかなければならないと思っています。引き続きよろしくお願い申し上げますとともに、熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。